

# 地域課題に挑むヒーロー

## 弘大生考案「ヒロダイザー」活躍

弘前

弘前大学の学生によって開発された同大のローカルヒーロー「ヒロダイザー」が活動の幅を広げつつある。大学祭や子ども向けのイベントに出演し、訴えるのは、本県の課題解決と地域活性化。学生たちは「人口減少や平均寿命の短さなど本県に立ちほだかる壁に、ヒロダイザーとともに立ち向かいたい」と意気込む。

(菊合賢)



「地域の課題解決に挑戦したい」と語る小山さん(左)とヒロダイザー

### 文化、伝統 見直す契機に

同大の小山秀晃さん(人文社会科学部4年)が中心となって昨年夏、公認サークル「ダイザープロダクション」を立ち上げ、コスチュームなどを作り上げた。デザインは、弘大在学中にご当地ヒーロー「お祭大将ヤーヤドン」を開発した同市の会社員・清藤慎一郎さん(28)が手がけた。同大の前身・旧制弘前高等学校の校章にもある黄金の鳳を全身にまとっているのが特徴だ。昨年10月の大学祭のほか、子ども向けイベントなどにも出演。「短命剣」を持って襲いかかる敵を、ヒロダイザーが地域の力や大学の研究の力を借りて、退治する設定となっている。「依頼があればどこにでも駆け付けたい」という小山さん。「災害や感染症拡大など、暗いニュースが相次ぐ中、大学から地域を明るくしたい」と、拳を握りしめた。弘大では、教員や職員がローカルヒーローを浸透させるプロジェクトを支援している。5月31日まで弘前大学資料館で開かれている企画展「地域をつくるキャラクターデザイン」では、ヤーヤドンやヒロダイザーなどの製作過程や活動などを解説している。企画展を主催する同大教育学部の佐藤光輝教授(美術教育講座)は「ローカルヒーロープロジェクトは、地域の文化や伝統を見直すきっかけになる。ヒーローの活動によって、学生と市民、子どもたちの距離が縮まる」と話した。

※この記事は東奥日報社提供です。

この画像は、当該ページに限って東奥日報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先]

弘前大学資料館

[jm3432@hirosaki-u.ac.jp](mailto:jm3432@hirosaki-u.ac.jp)